

狂言回全彙

秋

特
遠13
2749
3



門へ遠13
1549
3

狂言田舎操卷之下

江戸戯作者 式亭三馬 合作
門人樂亭馬笑



田舎芝居の乗込も三がの津小うらとふくおのく
夜の景色と餅まで赤地子白く紋所又も題字
中と書する丸提燈野々々竿の頭へ結び付て乗込
人数の真先子押立近郷近在子景氣をんせんと。
甚花美をみよる。其國子より其風ふよりおひく
の高掛あり。飯と乗込の入り口ある茶店にて酒

田舎芝居

式亭

衣服をわくわく探織（たづね織）乗込（のりこみ）勿論其国によりて駕籠（かご）も
 あれど（たゞ）馬（うま）も乗込（のりこみ）せしむる。けんく（けんく）と世活（よごと）六（む）腹（はら）
 御半（ごはん）八（はち）羽（う）お（お）で。○廿（にじゅう）後（ご）「サ（さ）く（く）あ（あ）く（く）せ（せ）じ
 無道（むどう）として立（た）駈（か）く。○羽（う）根（ね）新（しん）村（むら）の推（おし）十（じゅう）
 く（く）あ（あ）く（く）せ（せ）じ（じ）是（こゝ）で（こゝ）道（みち）具（ぐ）荷（に）が（が）あ（あ）れ（れ）ば（ば）皆（みな）揃（そろ）う（う）だ（だ）。モ（も）ノ
 三（さん）番（ばん）の荷（に）も（も）一（ひと）箇（こ）ぐ（ぐ）ん（ん）べ（べ）う（う）。○お（お）新（しん）妓（ぎ）ま（ま）の（の）面（めん）箱（ば）と（と）推（おし）し（し）て（て）
（り）り（り）町（まち）着（き）の（の）後（ご）と（と）面（めん）箱（ば）
（お）面（めん）箱（ば）と（と）何（なに）でも（でも）。○番（ばん）附（つけ）面（めん）ア（ア）拵（し）こ（こ）ん（ん）で（で）う（う）ら（ら）り（り）遠（とほ）く（く）
 ハ（ハ）後（ご）と（と）ね（ね）ぐ（ぐ）れ（れ）一（ひと）人（ひと）関（かん）ても（も）あ（あ）ん（ん）程（ほど）が（が）一（ひと）人（ひと）過（あ）上（あ）でも（も）と
 馬（うま）へ（へ）こ（こ）看（けん）を（を）あ（あ）つ（つ）。ヤ（ヤ）レ（レ）看（けん）を（を）あ（あ）つ（つ）エ（エ）其（その）の（の）ナ（ナ）エ（エ）東（とう）六（ろく）后（ご）の
 馬（うま）へ（へ）追（お）き（き）て（て）順（じゆん）く（く）お（お）送（おく）て（て）奥（おく）を（を）先（ま）ん（ん）あ（あ）ん（ん）べ（べ）ら（ら）さ（さ）。
 三（さん）。○三（さん）強（きやう）彈（だん）屋（や）ア（ア）音（おん）人（にん）ど（ど）う（う）ら（ら）ナ（ナ）エ（エ）徳（とく）の（の）あ（あ）ん
 推（お）ふ（ふ）あ（あ）ん（ん）さ（さ）一（ひと）人（ひと）得（と）が（が）有（あ）ても（も）芝（しば）屋（や）ア（ア）打（うち）移（ひ）く（く）其（その）の（の）徳（とく）居（い）
 后（ご）の（の）馬（うま）ハ（ハ）驛（えき）が（が）弱（よ）く（く）て（て）よ（よ）う（う）ん（ん）べ（べ）い（い）。○酒（しゆ）居（い）后（ご）の（の）馬（うま）を（を）
 新（しん）家（か）の（の）鬼（き）十（じゅう）が（が）我（わ）勝（か）氣（き）お（お）使（つか）う（う）。○物（もの）と（と）眼（まなこ）と（と）打（うち）漬（づけ）
 一（ひと）。○首（くび）馬（うま）は（は）首（くび）后（ご）を（を）乗（の）せ（せ）て（て）。○聲（こゑ）と（と）啞（お）の（の）噴（ふ）噴（ふ）で（で）
 時（とき）は（は）有（あ）り（り）。○あ（あ）ん（ん）ま（ま）り（り）誰（た）れ（れ）の（の）中（な）で（で）も（も）移（ひ）ん（ん）が（が）浮（う）き（き）物（もの）と（と）
 打（うち）止（と）め（め）。○矢（や）と（と）門（かど）十（じゅう）が（が）う（う）。○穩（う）当（とう）が（が）馬（うま）ハ（ハ）一（ひと）と（と）り（り）さ（さ）。
 け（け）用（よう）の（の）首（くび）も（も）目（め）を（を）明（あ）く（く）。○か（か）ん（ん）一（ひと）。○二（ふた）三（さん）強（きやう）彈（だん）く（く）

三。○三強彈屋ア音人どうらナエ徳のあん
 推ふあんなさ一人得が有ても芝屋ア打移く其の徳居
 后の馬ハ驛が弱くてようんべい。○酒居后の馬を
 新家の鬼十が我勝氣お使う。○物と眼と打漬
 一。○首馬は首后を乗せて。○聲と啞の噴噴で
 時ハ有り。○あんまり誰れの中でも移んが浮き物と
 打止め。○矢と門十がう。○穩当が馬ハ一とりさ。
 け用の首も目を明く。○かん一。○二三強彈く

人六。因が有ちやア弾後人さうぶ。りりでも。番毎に
育人ご子。眼が有てるらん。三味イ弾くもで馬ア
て出さ。一擡千え。馬が足後擡ご。一足後人。モノ。
二十匹の馬で。其上に駕籠があさ。淨瑠璃ッ洛
アのたま。夜達ちや。ひりくるあち。て駕籠さ打乗
せるが。お風ふ中ると声に降るげ。傀儡子。尻
傀儡の組が有る。皆一斎あして馬に乗せる。ぞ。
番録。ア。遠くめ。ぞ。よ。十。二十。室で。二十。又。あ。

こで三十三。三十八。九十四。何でも是。五十人。ち。く。の。人
この。お。勢。紙。乗。て。どう。ある。めん。ど。小。と。と。村。内
ぢやア。顔。返。が。る。ん。秘。く。こ。く。く。十。太。我。が。形。を。何。乃
まね。の。と。屍。イ。引。端。お。て。提。燈。さ。高。く。さん。出。せ。
何。でも。ア。芝。居。の。盛。る。盛。る。秘。く。と。乘。込。の。威。勢。で
あ。る。ま。よ。こ。で。威。勢。が。折。込。こ。し。る。供。馬。の。駕。之
客。の。句。を。よ。ほ。提。し。く。ら。沙。等。が。親。共。八。相。愈。子。根
提。し。く。ら。ト。り。あ。又。又。又。あ。の。一。權。千。と。ん。の。名。義。儲。子

御入道録

□

主一人の世話ごとくさうさうア
 一も嫌いなんべい。代の馬
 扱もあー。一毛已等も出するも
 さらさら。一毛已等も出するも
 さうさうの。推千一人がけさるも。年が老ても未主
 連りやア負移さ。一金持。我が張居るくど。一我
 も張るもあや。をさあしくあくとあれど。ハア主等が
 多勝に乗るもあや。れ付の後家屋。菊石の回乃
 小娘子ごんべい。些陰同の好みのハ。破後。一推千ごん

の悪れ。はも推千の。推一け推を書入。子あごんら。
 ぞうごの。一長も。分破後。又他を。さ。田主
 名の。小旦那。が色。ると。掃ぐ。か。か。一さうさうさ。
 又何ご。か。悪。は。い。さう。思。つ。て。推一。主。が。推。文。板
 行。不。後。して。さ。く。が。の。推一。して。暑。客。を。あ。お。村。因。
 した。せ。ら。さ。ま。り。か。い。ふ。か。れ。び。ら。け。く。者。も。あ。ん。め。
 何。雨。の。家。の。腰。張。中。も。主。が。身。名。の。法。て。さ。く。と
 ハ。後。人。さ。女。の。重。引。扱。ら。て。さ。う。さ。う。さ。お。娘。主。に

ちると心算はぐめるがけいんとて書り入る。とらう早
 りんハア。其女子横面さ擲のめさるる痛面と抱か
 ぐらうテ番ごまう番ごまういさ。又外格とも聴て
 又まきまきいらいあで。イヤヤは小旦那もア忙りま
 可撞千已がりの何時其格ふるりとあつて計
 ぶんぬくくらは知仁どうもあんぬ。撞千一人あがある
 から抜口上よ。ナア番ごま。ウム。あれあの通り。ウムと函
 知ど。撞千のウはあつちやアうあつちや。撞千

撞千「二言どん。々々ハア。乗込の所為ら。めつてに着
 勝ら子。「威勢がようんぶつ。又二言うへ版撞が
 思つておん。撞千「何ご五本締結城の堅結う波結の
 手織めんご六着ねでナ。田舎が奢て来さう。瑞
 の福へ心算はぐめるがけいんとて書り入る。とらう早
 六文ある。六りけい遠でト着る更紗本締う輝乃
 吉心の形をこませさぢやア福へ系締天裁の戒の
 羊織うけこち番色のまご紅緋が縹緋上宮う

些古くもて黄色くあつた。二度の晴着で行
 ても終つて。徳用はまらう。斯くもあつた。風
 俗も。ト。まよ。江戸仕入の合巻。うい。繪冊子と
 して。あひ。付。えん。づ。形。が。其。身。其。終。つ。た。れ。ど。本
 綿。更。紗。が。不。便。も。万。ど。ハ。ア。能。加。減。も。悪。く。云
 ら。う。も。い。推。十。ト。く。あ。め。の。ご。よ。移。し。て。よ。中。の。行。ど。
 ○ぬ。う。今。時。持。つ。て。も。あ。ん。久。江戸。の。早。癩。ふ。流
 行。る。て。今。頃。ハ。唐。山。の。若。子。坊。主。屋。が。冠。居。る。の。丈
 で。色。も。赤。う。せ。ぐ。て。怖。し。い。女。が。悪。く。て。も。○ぬ。
 父。部。ふ。志。れ。て。も。○ぬ。孕。子。で。も。○ぬ。他。の。異。見。も。○
 ○ぬ。田。地。田。畠。が。荒。れ。て。も。○ぬ。居。所。を。所。不。迷。ら。て
 も。○ぬ。可。老。女。と。一。匹。も。居。る。バ。た。と。人。食。る。中。に。あ
 て。命。が。亡。る。も。サ。臨。終。正。念。○ぬ。ト。く。く。く。く
 主。が。操。ぐ。ら。う。何。を。云。て。も。ハ。ア。こ。ら。と。も。○ぬ。ど。
 推。十。氣。不。降。ら。せ。も。○ぬ。い。く。も。モ。ノ。主。達。に。結。役。が

推十
 氣不降らせも
 ○ぬいくも
 モノ主達に結役が

あゝ。大釜あがり松系小路。モ。教導寺の曲角

あゝ。迎ぐて。出張て。号せ。折角着体。つ。着物

と女達よりん台て。や。つ。か。い。迎子。借ぐ。雇ん

「拵。借ぐ。物を。移す。拵。用心。拵。借ぐ。ゆ。ぬ。ぬ。

「用心。ト。え。用心。拵。拵。借ぐ。づ。づ。改。み。よ。馬。馬

の。あ。け。短。に。ト。あ。く。ま。ま。拵。コ。ろ。く。随。分。服。と。配

の。い。か。い。女。の。方。計。見。ら。め。て。行。心。の。人。と。い。さ。ら。ぬ。め。が。よ。

○ 惣とく。大。ま。の。後。人。形。之。前。申。大。勢。列。着。て。ま。あ。く。よ。
一。元。より。馬。馬。の。次。形。を。こ。り。て。行。列。あ。ら。う。ら。に

新。あり。新。の。新。の。音。

拵十。サ。ろ。く。め。ぞ。て。く。マ。ろ。く。噺。く。乗。込。も。海。ぞ。

作。十。と。ん。主。後。度。何。で。も。う。ま。ら。ず。勧。進。元。ま。を。乗

込。ぞ。巴。ア。是。ら。行。の。安。否。い。つ。て。後。の。花。垣。い。は。け

あ。や。あ。ん。後。の。車。や。お。走。ら。主。急。で。折。ん。ま。ま。ぞ。と。と

君。送。り。大。ヤ。レ。く。ハ。ア。が。酔。く。あ。や。ト。ま。ま。あ。り。を。金。肉

と。ん。ま。ま。ご。ご。ご。ら。拵十。推。十。と。ん。い。く。ま。脚。さ。ら。ん。い。ナ

「氣。骨。が。折。て。こ。て。ら。れ。後。サ。ろ。く。主。と。拵。向。を

一杯ろろ喰へさ 金「ようんべい」 棒「これら」 煙を漬
てらごせし廿八文と二合半が糸結してト者は何でん
べい。ラ。 入る「ま」 ぐようんべい。江戸味屋で吸物ありて異
さのせし 金「其」 田「炉裏」 小「実」 結てあふ痛焼も一
棒ようんべい 女「房」 ア「イ」 結く温て居てもさうさく 裏「ア
上やどい 棒「結」 其「ゆ」 て あ ら も ア 好 ト ち う り を
子合福人 ア イ 結 ん べ い を サ ア マ ア
コレ八文の 女「あ」 金「結」 ん べ い を サ ア マ ア

お摩屋 棒「主」 ま お 獲 た り 湯 の 結 ぎ と 酒 の
 結 ぎ イ バ ある 物 を 移 す 其 内 早 細 ぐ さ あ る さ 金 ト
 ま ご ら 免 さ り ヤ サ ケ ク 総 と や ら り ヤ レ
 つ ぶ ら る 金 一 杯 つ て さ ア キ マ ド い 金 二
 む ぐ く ヤ レ は は で 氣 が さ を く り と と 金 一 杯
 か う く と あ ら る が ど う も な ま ん 移 し け ら け 結 指 か 酒 と
 勝 越 を 勝 計 合 食 居 る 馬 鹿 者 を 本 の ア 毛 積
 松 よ は ま あ ら ば は な ら ば よ り 傍 あ ら う け お ま あ ら る ハ ア ウ
 ま わ の は い つ つ し の 万 能 小 達 し て 心 の 思 は る や う せ う

田舎指

七

こゝろの徳様とありて。田舎の人とたゞす。まのちきり。声あて。先刻

くらゐで聴き取りや。おちんづもよらむとさむ

けし。おちんづもよらむとさむ。二盃が竟らぬ

あるそと友が来る。又とあせるで大飲とあるまら

宿で飲ぶ。其酒力と倍て料理茶屋とある。

イヤどうも。家の料理は終らぬ。又飲

あした何れ其酒と切よ。他へ移る。到頭四

五折目の渡り終らぬ。娼婦の方へ止りて。いづら

移る。いづら六折らぬ。和合する。酒やどか物おそ

ら。何國の馬の骨。牛乳骨。志れ移る。酒

屋で。忽ち心算。あつて三年も別席とちん

あるどおちん。乃今とある通り。是れと結核を酒と

飲ぶ。牡丹餅で茶を吞居る者。毛様松で

あつて。後ともサ。あつて。あつて。あつて

る。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて

あつて。あつて。あつて。あつて。あつて

あふんはくさうらやすと海のみぬ人としてよく
見れば様事も無事と有る。いやはいも海好
あつた。

なまぐたんとあふんさうらびになつたて
酒も志もあんなまぐたぬぞ。やうそり江戸の本陣の子
同回院とある石塔の松小終小付身を徳利とする。
とまうと辞世のあつた。い。酒といふものゝ意角
やあつたぬものこ。やうらも今も好い多し。酒好る

多しののき 樺平。ハイ。よりのでもあつた。モシ。墨跡。その今の彼。
天智天皇六万何とやうなけり。天智天皇六万何とやうなけり。
このつらうらうら。今のあつた万葉と。ハイ。万葉と。考へ
万葉と六数が万何ともいふ解小あつた。何となく。
終極あつたらや移人。それでも酒のこけりあつた。
どうも。是れを統あつた。あつたがさうな解せぬ。
け溝初六志つらう。願やせう。トキニ。つら移之夏ふはあつた。
狂歌や俳諧が流りあつた。或は太夫の身もさう小

足那屋とくふおんがよく好つゝわるめんぞうけあ等
持「狂歌を佛を請ふつゝ
 一宵寝海ゆごらう子
 ぞつ移人各ごの 一金何さ狂身や佛遊をみるべし
持「主でもあんめ 一何の更なるい 一金主よりは
 まご巴が方が博試ごす狂歌と六人を笑はせる
 夢を海びご佛遊と六人向ともまげご初書や
 梅の里花おの花あんぞとや〜〜〜
金モ。江戸の旦那其徳はふあるろまを

一とやうと。諸國と遍歴〜〜やま〜〜
 ひとども俗物と風流小等〜〜為さす。〜〜海
 好〜〜酒氣亭〜〜益と狂名と呼ぶと彼草冊
 みるもの戯作〜〜式亭三馬あ〜〜
 一宵をや〜〜三馬が作の本もけ急〜〜あやせう
金「事りま〜〜あ〜〜拵る存〜〜体
 一〜〜流割〜〜一〜〜が教てやう〜〜作者ふ

中へ。まじく（独歩）の歩みおやせん。の〜の〜り
 かが移〜。こ〜と（一縷）不居移人と作が出来
 やせん。あれやも又〜。京傳先生。一九先生。京山
 先生。あの流と茶の湯活花。あるひの香の野（野）
 どのといふ友達〜。毎日つ〜。通（通）者
 通〜。イヤサ〜の外通
 人でも移〜。さういられやア（些）おさねるが。ま〜。風
 流の友〜。金（金）ハイあるらど。イヤモ〜。も〜。本が

好で〜。作者の名も〜。つ〜。ちやア〜
 々れど。お〜。今（今）聴く〜。お〜
 ざりやま〜。その答さ〜。先生〜
 と〜。多て名紙〜。者〜。これやも〜
 て子。そ〜。先生と〜。名を〜
 つて〜。二〜。寄の〜。子
 ハア〜。文経。お〜。先生
 心もよ〜。書りや〜。立川〜。橋馬先

田舎抄

四十一

生様のゆづり身でとすまが家さびげりまして落
 産とさうしかりまゝの芝居の作もさうしてこれ
 ましうけ。何でもすうく盡りかけの産干。産ま
 馬馬さるの息子どのの咄がよ計で移ささ書
 りりやまそこ芝居役者声久何でも物まの似が
 生馬物ど 一公馬馬老人もいゝうて慈さふ
 するが。あの先生は産干をする息を移人そりや
 食りせ者どり。一何と食せるえんどのハテサ

物さを年八悪い癖で国く産物があるの
 ちぬ鬼武先生北馬先生どのの産物もあり。
 京山先生どのの産物も方ぐあるのどかおれが
 産子の三馬もな産物これまた四めんも有こ
 だか皆方ぐの国人が文通のなま教てよま
 うのこびだ身入るてか其申も目と鼻の洞
 てこ馬の産物があつて十日りども産物して産
 ぶ。十日目も産物これよの産物をいふが様者か

奴が有るのさ。抑が新あごたれど憶病者ぞ
 〓田舎るぞ之とて六奇。江の島鎌倉之遊
 宗社をらり。其外六下総迄不知已があらそ
 折角に旅のりもあらされど。二馬子おいて旅たま
 らひき。ハテ唐もいられど。えも志ねぬとて
 ありて唐紙扇面と襦袢のさかす。す。
 落し紙。毛頰やりを。出まもせぬ詩や歌
 や。似もせぬ聲久ののち福として。圓圓の八人

義武されて六文人。雲客おきりりらあひて。夫
 づらうおめんがらも弓断しきんか。目ちをさされ
 福之也。金内。弓断ハ仕ぬぞ。チ推干。後十。持よけ
 先生さるおんぞも其組ごんごのよ。江戸。イヤ
 志しをのくれても已が眼も佛さるごごごご。チ。
 何ぞ主等が先生ごんごの。金内。どうご先生といふ
 細ごんごの。已も本ら好で薄むが主おも先生ご
 細居べつが。モノ。川柳が柳宿云ふ本の中子。先生

いらしてはるのまじり捨てほきてせるころのふ句がある棒「
 付先生ごらへる金「虚とぶんぬくもふどむめあつ
 めんど。海氣亭うまゐ三益さんえきへん。あつめ三益さんえきがるへん
 結むす加減くわげん子こ我言わごと衝つが結むす「棒こ主も人を
 見てもめをとらうが結むす已等おのらと何なんごとおのふは
 村内むらうち乃若者わかもの共ともの志こころあつとて棒箸はしのあつころん
 とにも金肉かねにく棒ぼう千の出で移うつへるとる移うつき田舎いんが言ことうせ
 ん棒いさる江戸えどの風かぜ来きる是こゝ津つ已等おのらり棒津つと抱かかり
 さまや 何なんもも出来できぬさ棒「棒ハテと棒いかに
 いふ人ひととらう。おれが寄よてもせうと棒軽かろみやアま長なが

金肉「ハテいりうーやんか。主ぬしあるあつとあつうが。ハ
 目めの晩ばん景げいまで棒筑田つくぢの宿しゆくで寄よて打うち居ゐて棒夜よ不ふ
 志こころてあつとらあおれ船ふね居ゐると主ぬしのふが棒階かゐ居ゐる
 があつとらあつとら。筑田つくぢの橋はしが附つき紙かみと棒寄よ
 てあつて。ハ村内むらうちで寄よてぶるそとて棒ねらあ棒預よ
 へく移うつへう棒エ棒ま棒い棒し棒一棒言ことはあつて棒五夕ごせきの返へん答こたも

田舎抄

十四

おてあ入 おれあて イエそれいふおうたまにいふを
 ござりませと。そのやア私の出損ひませ おまわ 持 おまわ けなすは
 ち閉口 おまわ 閉口させるでも存んま。馬の師匠どめを
 閉口させたねと。そのは おまわ 持もあん存んま。
 イエ おまわ 持する年。持 おまわ にお方とも存んま。おまわ
 おまわ外 おまわ やま。いこのやアどうぞおまわ。笑ひふ
 しておんあま。金 おまわ 行もア主と争論
 て おまわ 存も存んま。おまわ おまわ 存も存んま。おまわ

金持どん。お伺の中を おまわ 存も存んま。持 おまわ 千が一
 言 おまわ せと。おまわ おまわ 存も存んま。持 おまわ 千が一
 持 おまわ せ。おまわ おまわ 存も存んま。持 おまわ 千が一
 田舎者の物と。おまわ おまわ 存も存んま。持 おまわ 千が一
 斯 おまわ せ。おまわ おまわ 存も存んま。持 おまわ 千が一
 持 おまわ せ。おまわ おまわ 存も存んま。持 おまわ 千が一
 の おまわ 存も存んま。持 おまわ 千が一
 ひとあは。有難 おまわ におまわ おまわ 存も存んま。持 おまわ 千が一

お江戸ハ結金の集る所で日本六千余州第一らん
 唐ももあるらん一斗はまき経乃は島昌の土地でこ
 がる。それゆゑお江戸さ出て見ると人よあつて国へ
 向る。それとどこの国も。金やうけの出来お江戸を
 儲きて。農業でやうく。後世のある田舎と田舎小
 存つあるまゝあるらん。一に知れ遠ざ。ハテ田舎ら
 お江戸さ出るらんあつて。お江戸も田舎と見
 ておせぐちよ。ハテ利をあんらん。とあつて。ハテ

お江戸の人のやうあつて物々食て縮布に
 まつて。あつて。振り行つて。中であつて。ちや
 惣が。干らさ。お江戸でも。らん。らん。真性。らん
 いらあつて。田舎の人。一斗。さ。朝。あつて。つて
 き。あつて。夏。と。頂。寒。の。時。も。あつて。ひ
 暑。の。一。月。も。汗。を。農。業。と。精。の。入。り。ま。ん。ま
 と。仕。上。つ。て。米。一。粒。咽。と。と。ら。ま。い。麦。稗。粟。黍。の
 部。食。い。食。て。生。涯。を。れ。で。終。る。と。大。層。層。でも

我々も同様でも田舎ハ一体ぞ。お天道さると同
 一志子毎日休るりも移さ。主等々有ぐてお江下
 銭まうけ上為地ねぞ。あまけ拂つて金もをて
 一上句果ハ田舎さまどろくの。それぢやア能ん
 ぶのど。実利が思つれるさ。一エ一くはむ。その
 通りさ。伯父也も移さ。一伯父也。イヤ伯父也
 西の伯母甥もどろ。古親着属有縁を縁乃至
 滋野平等利益の人。わらわらわら。

トまじり 権干 一竹ごさうら 一平等利益の人
 一イエ行。ちらと。ひか。

ハア。暇ろくそりて。主等んら
 一ハア。暇ろくそりて。主等んら

一ハア。暇ろくそりて。主等んら

一ハア。暇ろくそりて。主等んら

勸進元が金持ぶらう。まあうけべのちよろ第でもあん
 ぞ、^推あう一ハテ。江戸へお供あつて、上野へ入道が
 容易いまぢやアぬ。其代もア通うがうらう宿の
 者のまぢはうりて。ヤレうらう方さ傀儡屋の宿を志
 ぶ。イヤたまなをいおれんよ。せのよいぞ勸進元
 うらうまぢに雑用ごめんあつた。穀屋より。いんやん
 三人づつ彼者と引こみ。ま居身行中の宿と云ふ。各宿の
 金一、見んぞ。善根を積んで、平生ごい、慈悲海の人ぞ

うらうその奇持ハあんづつて殺してバ盛るべし 金を
 だては借金さサアけ鈍子、無二つめりて、
 金、うらうべし。あんぞお者でもよませう
 是が出縁でお知已のふよ。イヤ、だちあるぞ
 よまらうーやい、^推ア、いんやん、おれんぞ、
 よまらうてあいら、^推ア、いんやん、おれんぞ、
 トの門、^推ア、いんやん、おれんぞ、

